

人と地域を結ぶ音頭の研究 ～埼玉県久喜市の新民謡～

A study on "Ondo" that connects people and places

時空間デザインプログラム
12_00155 青山優 Yuu Aoyama
指導教員 土肥真人 Adviser Masato Dohi

第1章：はじめに

1-1 研究の背景と目的

人は地域社会の中で生活を営む中で、地域とのつながりを獲得していく。本研究は、地域における新民謡、あるいはそれを利用した盆踊りに着目し、それらが、人々と土地とのつながりにどのように寄与していくのかを明らかにすることを目的とした音頭の研究である。日本の伝統離れが進む現代において、地域伝統の一つである新民謡や盆踊りが今なお息づいていることの意味を見出すことには大きな意味があると考えられる。

1-2 先行研究

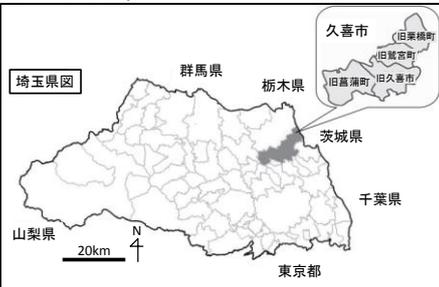
民謡や盆踊りそのものに関する民俗学的あるいは社会学的視点からの研究や、それらを教育に取り入れることの意義を考察するもの、盆踊りと地域づくりに関する研究などがある。本研究では地域社会における音頭の役割に着目した。

1-3 論文構成

1章で研究の概要を把握し、2章では本研究で扱う新民謡や盆踊りについての知見を得る。3章では、埼玉県久喜市に存在する新民謡そのものに関する具体的な状況を把握する。4章では埼玉県久喜市内において、音頭(新民謡)が具体的にどのような場面で使われ、人々と関わりを持っているのかを明らかにする。5章では、4章で示した音頭と人々との関わり合いの場面を久喜市合併(2010)以前の4地区ごとに考察する。6章では、音頭と関わる人々の意識把握を行い、7章で総合考察を行う。

1-4 調査対象と調査方法

調査対象地は埼玉県久喜市内【図1】である。埼玉県久喜市は2010年に栗橋町、鷲宮町、久喜市、菖蒲町が合併してできた市である。



【表1】久喜市合併状況(現久喜市の人口は平成28年時点、旧地区の人口は平成22年時点のもの)

	総人口(万人)	面積(km ²)
現久喜市	15.5	82.41
旧栗橋町	2.8	15.78
旧鷲宮町	3.7	13.9
旧久喜市	7.2	25.35
旧菖蒲町	2.1	27.37

【図1】埼玉県久喜市

本研究の調査は、①久喜市における新民謡の把握 ②久喜市内の新民謡が人々と関わる場面の把握 ③久喜市内の人々が新民謡との関わりの中で持つ意識の把握 の大きく3つに分けることができる。【表2】にこれらを踏まえた調査概要を示す。なお、このほかに文献調査及びインターネット調査を行った。

【表2】調査概要

調査方法	ヒアリング調査、アンケート調査	
調査期間	10月～12月	
質問項目	新民謡(音頭)の詳細(歌詞、作者、作成経緯など)→3章	
	音頭がどのような場面で人々とかかわっているか→4章5章 音頭とかわる人々がどのような意識を持っているか→6章	
調査対象者	調査方法	章対応
	久喜市立栗橋南小学校小学6年生33人 久喜市立栗橋南小学校学校教諭17人 久喜市内全23小学校	アンケート調査
アンケート調査		6章
アンケート調査		4章5章
久喜市立栗橋南小学校校長・教頭	ヒアリング調査	4章5章 6章
栗橋音頭保存会	ヒアリング調査	3章 4章5章 6章
調査対象	南栗橋音頭作曲者	ヒアリング調査 3章 4章5章 6章
	豊田ふるさとづくり振興会	ヒアリング調査 4章5章 6章
	菖蒲夏祭実行委員会	ヒアリング調査 4章5章 6章
	菖蒲民謡レクリエーション連盟	ヒアリング調査 3章 4章5章 6章

第2章：地域における新民謡とは何か

2-1 新民謡の位置付け

新民謡は、愛郷心の増長や全国各地へのPRを目的に、全国各地で作られた民謡調の曲である。本研究では、【表3】のように民謡、新民謡、音頭を捉える。

【表3】新民謡の位置付けに伴う言葉の定義

言葉	定義
民謡	民衆の中で伝承されてきた作者不明の歌
新民謡	作者が存在する、民謡調の歌
音頭	一人の主な歌い手と合の手によって構成された歌
小唄	三味線のつまびきに合せて歌う短い曲の歌

2-2 音頭の位置づけ

人々は歌や舞踊とともに古来から生きてきた。人々の生活の身近なところに寄り添う存在であったのである。ところが、明治以降レコードの普及や全国一元化の風潮の中で、歌や舞踊の本来の意味は失われてきたと考えられる。その中で、大正時代以降、新民謡は行政などの発案によって作られ、音頭と題されて各地の盆踊りで踊られるようになった。本研究では、盆踊りで踊られる新民謡を、踊りも含め、音頭と捉える。

第3章：埼玉県久喜市における新民謡

3-1 埼玉県久喜市における新民謡の概観

ヒアリング調査、文献調査により、存在を確認することができた埼玉県久喜市内の新民謡は【表4】の通りである。

【表4】埼玉県久喜市の新民謡

曲名	作詞者	作曲者	編曲者	振付	唄	作成年
新久喜音頭	濱梨花枝	矢吹光		岩井半四郎	仲宗根美樹 長崎新也	1971
栗橋音頭	高橋郁	—	—	—	井上千春	1972
南栗橋音頭	高橋郁	柿沼勇夫	鈴木英明	桃山駒寿郎	山田喜子	1989
菖蒲音頭	上原ひろ子、斉藤林晃、テイテクレコード、門井八郎	春川一夫	大久保徳二郎	河藤たつろ	三波春夫	1960
菖蒲小唄	門井八郎	春川一夫	大久保徳二郎	河藤たつろ	鈴木三重子	—
わしの宮音頭	宮沢章二	下川博省	押尾司	—	—	—

3-2 歌詞と地図による考察

久喜市内の新民謡は、2010年の久喜市合併以前の旧4地区と作者や作成目的、歌詞の内容などが密接に関わっている。歌詞の中には各地区の特産物や歴史、特徴などが織り込まれている。【図3】では、音頭の歌詞に登場する場所を示した。

以上より、久喜市に存在する新民謡は久喜市合併以前の旧市町村のエリアそれぞれと密接に関わるものであり、それぞれの地域的色彩が非常に強いものであることが分かる。

第4章：音頭と人々のかかわりの場面別による考察

4章では、埼玉県久喜市において、音頭が人々とどのような場面で関わって行くのかを明らかにした。

4-1 小学校における音頭と人々のかかわり

アンケート調査およびヒアリング調査により、久喜市内の小学校の多くが、運動会で音頭の盆踊りを行っていることが明らかになった。

【表5】小学校における音頭

No.	小学校名	場面	使用する曲
事例1	栗橋西小学校	運動会での演目として踊る	栗橋音頭
事例2	栗橋小学校	H28年度より運動会に導入予定	栗橋音頭
事例3	栗橋南小学校	運動会での演目として踊る	南栗橋音頭
事例4	桜田小学校	運動会での演目として踊る	鷲宮音頭
事例5	上内小学校	運動会での演目として踊る	鷲宮音頭
事例6	本町小学校	運動会での演目として踊る	新久喜音頭
事例7	江面第一小学校	運動会での演目として踊る	新久喜音頭
事例8	江面第二小学校	運動会での演目として踊る	新久喜音頭
事例9	久喜北小学校	運動会での演目として踊る	新久喜音頭
事例10	太田小学校	運動会での演目として踊る	新久喜音頭
事例11	久喜東小学校	運動会での演目として踊る	新久喜音頭
事例12	清久小学校	運動会での演目として踊る	新久喜音頭
事例13	青毛小学校	運動会での演目として踊る	新久喜音頭
事例14	菖蒲小学校	運動会での演目として踊る	菖蒲音頭
事例15	小林小学校	詳細は不明	菖蒲音頭
事例16	栢間小学校	運動会での演目として踊る	菖蒲音頭

4-2 音頭と人々のかかわり(小学校以外)

久喜市内の小学校以外の場面で人々と音頭がかかわる場面は【表6】のとおりである。

【表6】 地域の中の音頭

事例	場面の分類	場面の状況	使われている音頭
事例A	地域のお祭り	くりはし夏祭りでの盆踊り	栗橋音頭
事例B		栗橋みなみ夏まつりでの盆踊り	栗橋音頭
事例C		豊田ふるさと祭りでの盆踊り	南栗橋音頭
事例D		久喜市民祭りでの盆踊り	新久喜音頭、栗橋音頭
事例E		菖蒲夏祭りの流し踊り	菖蒲音頭
事例F	福祉施設でのイベント	すずのきメンタルケアクリニックでの盆踊り大会	新久喜音頭
事例G		介護老人保健施設みやじまでの夏祭り	菖蒲音頭
事例H	団体の練習	しょうぶの里 介護老人福祉施設での納涼祭	菖蒲音頭
事例I		栗橋音頭保存会の練習	栗橋音頭
事例J	その他地域イベント	菖蒲民踊レクリエーション連盟の練習	菖蒲音頭、菖蒲小唄
事例K		久喜市栗橋文化祭での栗橋音頭保存会の発表	栗橋音頭
事例L		菖蒲地区区体育祭での盆踊り	菖蒲音頭

なお、【表5】、【表6】における事例の記号(1~16、A~L)は、【図2】に示した人々と音頭の関わり地図上の点の記号と一致している。

第5章：音頭と人々のかかわりの地区別による考察

5章では、3章4章の内容を踏まえ、2010年の久喜市合併以前の4地区(旧栗橋町、旧鷺宮町、旧久喜市、旧菖蒲町)それぞれにおける音頭と人々のかかわりを、地区ごとに考察する。

■栗橋地区(旧栗橋町) [事例1,2,3,A,B,C,I,K]
栗橋地区ではお祭りや栗橋音頭保存会の活動などが活発に見られた。栗橋音頭の歌詞に出てくる関所址周辺や、南栗橋音頭の歌詞に出てくる大落とし周辺で、それぞれの音頭が踊られる場面を把握することができる。

■鷺宮地区(旧鷺宮町) [事例4,5]
鷺宮地区ではあまり活発なかわりは見られなかった。

■久喜地区(旧久喜市) [事例6,7,8,9,10,11,12,13,D,F]
久喜地区では多くの小学校が新久喜音頭を運動会で踊っている。久喜に住む子供たちの多くが新久喜音頭を踊ることができるということであり、非常に興味深い事実である。また、新久喜音頭の歌詞に出てくる甘棠院や天王院のまわりの小学校やお祭りで音頭が踊られている。

■菖蒲地区(旧菖蒲町)[事例14,15,16,17,E,G,H,J,L]
菖蒲地区では、お祭りや、福祉施設、体育祭など、音頭と人々が関わる機会が多様であり、これには菖蒲民踊レクリエーション連盟の活動が大きく影響していることが分かった。また、

菖蒲音頭の歌詞に出てくる星川や見沼用水付近で、菖蒲音頭が活発に踊られていることが分かった。

■4地区のまとめ

2010年の久喜市合併以前の旧4地区はそれぞれの地区の名前の音頭による、人々と音頭のかかわりの場を提供している。また、歌詞に出てくる場所付近で人々と音頭のかかわりが活発に行われているケースがあることが分かった。

第6章：音頭とかわる人々の意識の把握

6章では、栗橋地域における音頭と関わる人々の意識を主に調査し、考察した結果を述べた。

栗橋地区のアンケート、ヒアリング調査対象者の回答から作成したKJ図【図4】に示した。KJ図、及び栗橋南小学校児童へのアンケートの結果により得られた考察は以下の通りである。[]内にKJ図のラベル番号を示す。

- ・音頭は身体で覚えるものであり、身体的経験である。[1]
- ・音頭は同じ地域に住む人同士をつなげたり、地域と自分自身をつなげることができる。[3,4,11]
- ・音頭は地域に根づくものである。[5]
- ・音頭は親しみやすく地域の中で活用される。[9,10]
- ・地域への愛着を持つには地域と自分との距離を近づけることが大事である[14]
- ・人は音頭により、地域を好きになることができる。[8]

第7章 総合考察・結論

本研究で得られた結論は以下の通りである。

・埼玉県久喜市には、2010年久喜市合併以前の、地域的色彩を強く反映した音頭が存在し、市内の多くの場所で人々との関わりを持っている。

・音頭の歌詞に登場する場所の周辺では、人々との音頭の活発なかわりが見られるケースがあり、このことから、このような場所は今も昔も地域社会にとっての重要な場所であると考えられる。

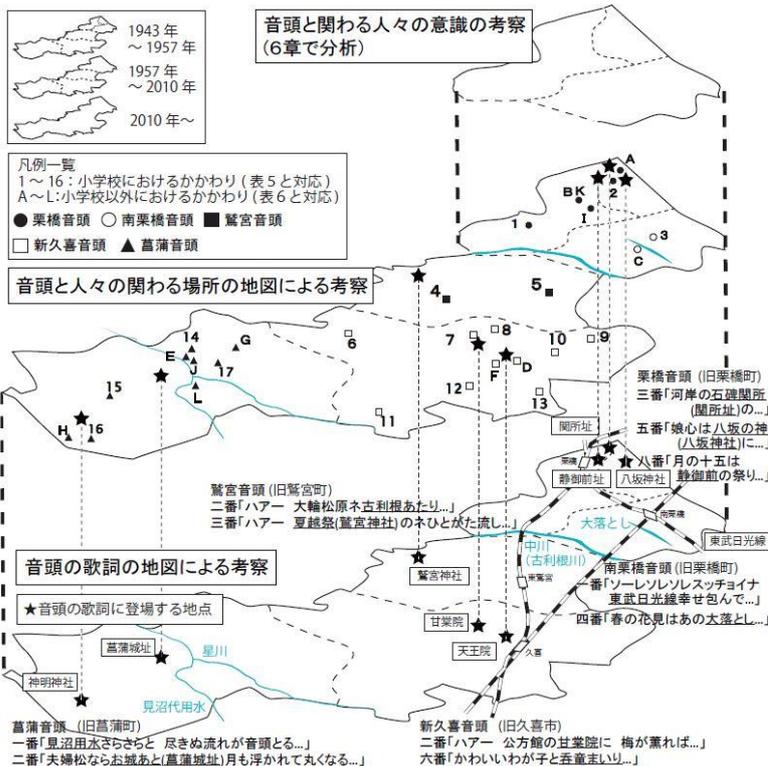
・これらのかわりは、久喜市の人々にとって地域的色彩の強い身体的経験となる。

・人々は、音頭を踊り、地域性を身体的に経験することで、自分自身と土地のつながりや、人と人との結びつきを獲得する。

・このような人と土地、あるいは人と人とのつながりの集合体こそが地域を形作るものであり、すなわち音頭は地域を作る

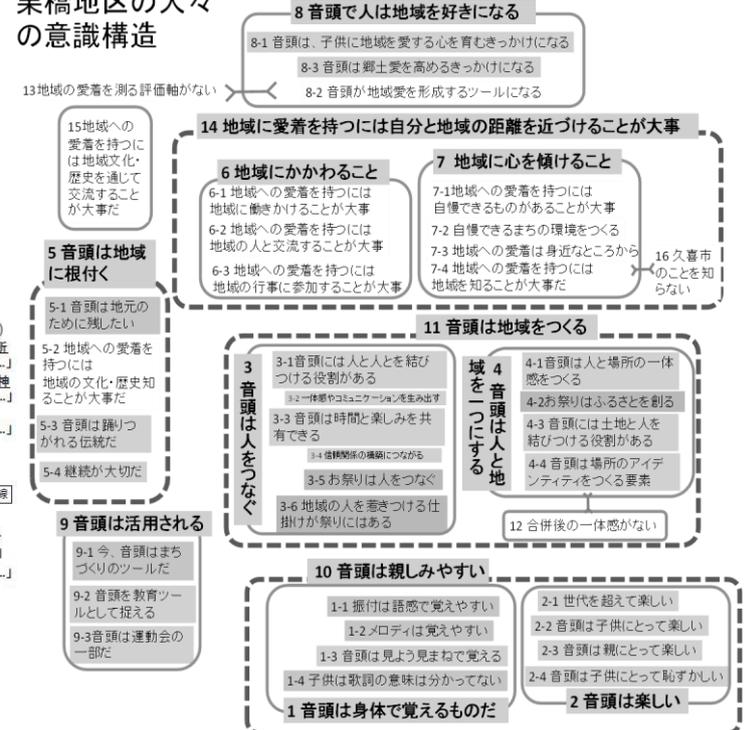
参考文献

- 『さいたまの民謡』(1981 埼玉県県民部県民文化課)
- 『盆踊りの研究(3)近現代における盆踊りの存在意義とその役割』(2011 小林直弥) 他



【図2】 分析図

栗橋地区の人々の意識構造



【図3】 栗橋地区の人々の意識構造